

# 第34回大会

中国・四国・九州地区

# 生涯教育実践研究交流会



- 期 日 平成27年5月16日(土)～17日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会  
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会  
第34回大会実行委員会  
福岡県立社会教育総合センター

## 「実践研究交流会」こそ「地方創生」 学び合いの場である

本実践研究交流会も第34回を迎えることになりました。34年も続くこの「交流会」の特色は、参加者による「受益者負担、手弁当」です。また、中国・四国・九州地区各県の「実行委員」の企画・協力で実施されます。さらに、徹底して「実践研究」にこだわる、まさに実践研究交流会なのです。そして、常に「未来の必要」を提言することを目指しています。このようなこだわりを大事にしながら34回目を迎えることができたのも、実行委員の皆様、主催の福岡県教育委員会や福岡県立社会教育総合センターの御支援の賜物と、心から感謝申し上げます。

さて、我が国は今、人口急減・少子超高齢化という大きな課題に直面しております。このような中で、各地域は多くの課題を抱えております。その解決のために、それぞれの地域の特徴を活かした自律的で持続的な創生ができるよう、国としても「地方創生」を掲げ、地域課題解決に向けた学び合いの場が求められております。本実践研究交流会は、地域での実践を取り上げ、課題解決に向けての事例を研究交流し合ってきました。地域課題解決の実践研究の場として34回を迎える本大会こそ、国の地方創生の構想の先駆けとなっているのだと確信しております。

今回は、中国・四国・九州地区の全ての県から28の実践事例が報告されます。また、三浦清一郎先生の特別報告「国際結婚の社会学」や、矢野大和氏を中心とした特別企画「笑学校」の実践と理論があります。御期待ください。

これらの多彩なプログラムが、御参集される多くの皆様方の研究・交流の場となることを期待いたします。また、大会交流会では、「ふるさと自慢」の特産品を持ち寄って楽しく語り合い、交流しましょう。

なお、最後になりましたが、私、この交流会の創設者、三浦清一郎先生、森本精造先生の後を受け、今回から代表世話人に就任いたしました。皆様方の御指導を得ながら、精一杯お世話役を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

代表世話人 古市 勝也

## 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第34回大会 実行委員

河合 淳一(鳥取県)鳥取県教育委員会事務局社会教育課	田上 明利(熊本県)熊本県教育庁教育総務局社会教育課
原田 尚(島根県)島根県浜田市立雲城小学校	三角 幸三(熊本県)熊本県宇城市教育委員会
渋谷 秀文(島根県)島根県教育委員会益田教育事務所	中川 忠宣(大分県)国立大学法人 大分大学
吉岡 康行(広島県)国立江田島青少年交流の家	多田 千栄(大分県)大分市立鶴崎小学校
正留 律雄(広島県)広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター	池本 要(宮崎県)NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク
福原 洋子(岡山県)岡山県教育庁人権教育課	竹内 一久(宮崎県)宮崎市立江南小学校
中吉浩一郎(岡山県)岡山市岡山っ子育成局こども企画総務課	坂口 純弘(鹿児島県)鹿児島県立青少年研修センター
赤田 博夫(山口県)山口県宇部市上宇部ふれあいセンター	諏訪原裕子(鹿児島県)かごしま県民大学中央センター
坂井 孝史(高知県)高知県教育委員会事務局生涯学習課	鶴木 孝夫(鹿児島県)鹿児島県始良市教育委員会
宮川 貴史(高知県)高知県教育委員会事務局スポーツ健康教育課	竹添 辰也(鹿児島県)鹿児島市教育委員会教育部生涯学習課
高木 義夫(高知県)NPO高知県生涯学習支援センター	大城喜江子(沖縄県)沖縄県浦添市立森の子児童センター
和田 瑞穂(愛媛県)愛媛県松山市立味生小学校	上田 哲子(福岡県)福岡県教育庁教育企画部社会教育課
馬場祐次朗(愛媛県)国立大学法人 徳島大学	森本 精造(福岡県)NPO法人幼老共生まちづくり支援協会
関 弘紹(佐賀県)佐賀県文化・スポーツ部まなび課	中園 宏(福岡県)福岡県立社会教育総合センター
林口 彰(佐賀県)(財)孔子の里	正平 辰男(福岡県)純真短期大学
紫園 来未(佐賀県)オフィス しおん	三浦清一郎(福岡県)生涯学習・社会システム研究者
鴻上 哲也(佐賀県)佐賀県伊万里市立黒川小学校	大島 まな(福岡県)九州女子大学
淵上 卓也(長崎県)長崎県教育庁生涯学習課	古市 勝也(福岡県)九州共立大学
武次 寛(長崎県)長崎県諫早市多良見公民館	

# Time Schedule **1st day 5.16 Sat.**

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00
受付	開会式	実践発表.1		受付
玄関ロビー	2F 講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		昼食 玄関ロビー

13:30	16:15	16:30	17:00	17:30	20:00
実践発表.2	<b>特別報告</b> 「国際結婚の社会学 -国際化で日本文化は変わるか?-」 報告者 三浦 清一郎 (2F 講堂) フリータイム		<b>第34回大会交流会</b>		
第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	移動				



■日時：1日目の夜 17：30～ ■場所：2F 体育館

「実践研究交流会は、実践事例の発表がメインなのか、交流会がメインなのか？」と問われるくらい、毎年、毎年大盛況の交流会です。ちょっと緊張気味だった参加者の皆さんが、料理をほおぼり、地酒を酌み交わして、「お国自慢」をし、「村おこし」の苦勞を話し合い、「人づくり」の楽しみを語り合います。その熱気に、人々の顔は真っ赤、会場は熱気ムンムン！今年も、全館貸し切りです。どうぞ心おきなく、お楽しみ下さい。

なお、せり市の売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、御了承下さい。

# Time Schedule **2nd day 5.17 Sun.**

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	<b>特別企画</b> 特別企画 「笑学校」の理論と実践 -「大分話し方教室」は笑いコミュニケーションで人生を拓く- 第1部「笑学校」校長インタビュー 語り手:矢野 大和・聞き手:三浦 清一郎 第2部「笑い」の中で何を言えというのか?注目の多い二人の晩学者に聞く 語り手:正平 辰男、三浦 清一郎 聞き手:矢野 大和 第3部 (1)「笑学校」の教育実習…三浦佳代子 (2)矢野大和校長の講評…「笑い」+「教育的メッセージ」	<b>総括閉会式</b>	<b>昼食</b>
玄関ロビー	2F 講堂	2F 講堂	



■日時：5月16日・17日 ■場所：1F 交流ホール

大会開催中、参加者の皆さんが携わられている「まちづくり」や「人づくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧下さい。



# 第1会場 ● 2F 第4研修室

■司 会／井口 秀明 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事  
今崎 宏 福岡県教育庁福岡教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 安養寺サタデースクールのふるさと体感プログラム 10:50~11:20

田中 靖子(島根県奥出雲町) 安養寺サタデースクール指導員  
高橋 伊尚(島根県奥出雲町) 奥出雲町教育委員会社会教育課

学園長が住職である「安養寺」を拠点とした土曜日の自然塾である。遊び・学び・修養の3つを柱に掲げる。子ども達は今自然を知らない。外遊びも、異年齢の群れの遊びの体験も減少し、農作業の手伝いや役割分担から学ぶ機会は消滅している。安養寺サタデースクールは、子どもの「応援団」を目指して、子どもの欠損体験を補完し、人に繋ぎ、自然に繋ぎ、ふるさとを体感させる。教職体験のある人々の支援を得て、その専門的知識を活用し、自然の中で、異年齢集団を生かしたダイナミックな遊びの姿を創り出そうとしている。課題は「応援団」の拡充とプログラムの開発である。

2 「学びのカフェ」物語～ひとが変わり まちが変わる～ 11:25~11:55

河内 ひとみ(広島県大竹市) 大竹市立玖波公民館 職員

「学びのカフェ」の初めのねらいは公民館のイメージチェンジ、「おしゃれな学び空間」を作ることであった。4年目の今日では、公民館が学校と地域を繋ぎ、地域課題の解決に向けて活動するようになった。開催は月1回、土曜日。生活に密着したテーマを選び、専門講師の講座に加えて、参加型の交流を重視した。2年後には「地域ジン学びのカフェ」、さらには「地域ジンまちカフェプロジェクト」へと進化し、中身の重点は地域課題の解決に移行した。受講者と市行政との協働プロジェクトや「中学生地域ジン」も誕生した。参加者は8倍になり、ネットワークは21団体を繋ぐまでに成長した。

3 町の人材、島の資源を生かした「いせん親子チャレンジ教室」 12:00~12:30

富山 勇生(鹿児島県伊仙町) 伊仙町教育委員会 社会教育課係長

事業の企画・立案は「社会教育委員の会議」が受け持ち、連合青年団の協力を得て実施している。子どもは家族同伴の参加を条件とした体験教室で、プログラムの中身は元より、「家族の絆」、「島の自然や文化の体験」「地域人材の活用」、「青年と保護者の交流」などを目的としている。開催は第3土曜日で、年12回、有料。住民を講師に、活動は徳之島全域で展開している。子どもと組み合わせたことで参加家族数が増加し、島の資源の再発見、郷土愛、地域人材への評価の向上、保護者の意識変革などが見られ、PTAや子ども会活動への波及効果も顕著である。



# 第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県年輪塾 塾生  
上野 知彦 福岡県教育庁北筑後教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 「大豆100粒運動」第2弾 10:50~11:20  
～学校と農家と消費者をつなぐ企業発の食と流通の総合的学習:その継承と展開～

池田 龍二(佐賀県佐賀市) ショッピングシティ・アルタ 販売促進企画室長

現在8年目、取引しているメーカー企業、農家、健康づくりを担当する行政など関係機関・団体の協力を得て「協働」事業に育っている。「食料自給」や「食の安全」などの観点の重要性に気付き、辰巳芳子氏が提唱する「大豆100粒運動」に注目して、アルタが実践的に継承した。第1回の発表当初は、主として食文化に重点を置いたが、現在では、農業、流通、製造、販売を学ぶ総合的学習の企画に発展した。主たる対象は小学生（現在は佐賀県内15小学校に拡大した）である。1年を通して大豆の生産の過程を学び、加工や栄養の課題を学び、最後は、販売・流通のプロセスを体験的に学んでいる。

2 発酵食文化による地域自給の普及と 11:25~11:55  
田んぼアートの実践を起点としたスローフードのむら・まち交流

白木 美和(山口県山口市) すろーふーどらいふ山口ネット・和(のどか) 代表

平成14年、3人の主婦が子どもの「食」環境について学習を始めたことからスタート。「すろーふーど交流の家・母屋(ままや)」を主要拠点として、地産地消や食の現場に触れてもらうことを目的に二つのプロジェクトを展開している。第1は、発酵食文化に注目したみそづくりプログラムで、参加者の家庭1年分の味噌を造りながらの交流である。第2は、「田んぼアート」。米が出来るまでのプロセスを楽しく体験してもらうことを目的に田植え、稲刈り、はぜかけ、餅つきなど耕作の季節にそった「むら・まち交流」プログラムで、高校生や地域ぐるみの参加が実現している。

3 「がっこう」づくりから中山の活力を! 12:00~12:30  
～休耕田も、おしゃべりバスも、高齢者の社交場も、若い力を循環させて地域を支える～

横田 光貴(高知県安芸郡安田町中山地区) 安田町ふるさと応援隊  
小倉 祐輔(高知県安芸郡安田町中山地区) NPOスマイルひろば

中山地区は学校の統廃合と同時に活力を失いつつあった。活力を取り戻すには、学校を取り戻すことが近道である。廃校舎を改築して「集落活動センターなかやま」を完成させ、「新しいがっこうづくり」を開始した。発想は広がり、休耕田耕作も進め、「おしゃべりバス」も実現した。実働は「中山を元気にする会」が受け持った。「がっこう」は、地域内に留まらず、県内の大学生や企業をはじめ、町に関わりのある人や資源を素材として、ワークショップや体験学習を展開している。平成26年度は9回の実施、小学生～高校生計65人の参加を得た。「がっこう」事業を通じて、企業と地域とのつながりも強まった。財源は「地元産品」の売り上げなどをあてている。



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／大名 克英 広島県立生涯学習センター 社会教育主事  
増田三恵子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方 10:45~10:50

1 図書館が挑む地域ネットワークの構築  
～「サイエンス・モール」in飯塚の取組み～ 10:50~11:20

大石 俊一(福岡県飯塚市) 飯塚市立図書館 館長

「サイエンス・モール」は、「リフレッシュ理科教室」、「理科読」、「世界一行きたい科学広場in飯塚」の3事業で構成する参加・体験型のイベントである。科学技術の恩恵の享受者であり、また担い手でもある子どもたちに、科学への関心を育て、科学リテラシーを育成することを目的としている。事業の展開に当たっては、図書館が主体となって実行委員会を組織し、市内の中・高・大学、さらには商店街も巻き込んで、協働の地域ネットワークを構築し、地域コミュニティの再生と活性化を目指している。

2 「学社融合」を積み上げて来た産山モデルの理念と実践 11:25~11:55

澁谷 香織(熊本県産山村) 産山村教育委員会 生涯学習係長

本村は従来から「やまびこネットワーク事業」・「子どもヘルパー事業」で教育と福祉との融合モデルを進めて来た。その後も「うぶやま学」の創設など教育行政の総合化と住民主導を目指して、子ども支援事業を展開している。今回の発表は融合事業を再編し、学校や保育園を支援して、学校、家庭、地域住民の交流を図るため、「学校支援地域本部事業」として、「広げ隊」、「学び隊」、「暮らし隊」、「伝え隊」の4部門による活動を報告する。結果的に、子どもの実践も、住民の教育への参画も拡充し、小さな村の住民主導の人材育成が実りつつある。

3 「YKG60(矢掛小中高子ども連合)」の企画—発想—実践のサイクル 12:00~12:30

井辻 美緒(岡山県矢掛町) からだ喜び会 代表

平成25年度にまちの活性化を目的とした「子ども連合」が誕生し、その後民間団体「からだ喜び会」の「矢掛で育つ子どもの未来についてはなすカフェ」事業と合流し、YKG60となった。町のために自分たちに何ができるか、活動の企画、会議のサポートは総社市の「NPO法人吉備野工房ちみち」に委託し、月1回、学校も年齢も異なる子ども達自身が町の課題や活性化について話し合い、空き家利用のイベントや町のゆるキャラをアピールするための商品開発、地域のごみ問題の取組みなど、発見し、企画し、実践するというサイクルが回り始めている。高校の協力で、地域交流施設Forestを拠点として「からだ喜び会」は、それぞれの学校と連携しながら子ども達の自主的な地域活動をサポートしている。



## 第4会場●4F 大研修室

■司 会／木原 正博 鹿児島県教育庁熊毛教育事務所指導課 指導主事  
山村知笑子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

**1** 森は海の恋人…落葉広葉樹を3,896本。  
～森林ボランティア「ふくの森の会」の15年～

10:50~11:20

乗兼 佑司(山口県下関市) 森林ボランティア「ふくの森の会」 広報担当

「市民と森を元気に」を合い言葉に、2000年1月に市役所OB、木材関係者、登山愛好家などが中心となって設立。活動は、植樹、山林整備、炭焼き、昆虫観察、バードウォッチング、茸や野菜の栽培など多岐に渡る。下関は三方を海に囲まれた「ふぐ」の名産地。豊かな海は豊かな森が育てる。会の名称もそこから来ている。そして森づくりは、環境学習やボランティアを育てる人づくりになって行った。活動場所は「内日ダム湖畔のふくの森」、国立公園「火の山」、「巖流島」、など。15周年が過ぎて、「ふくの森」には3,869本を植樹、豊かな森となっている。

**2** 子どもの「遊び特区」を創り、「ふるさと愛」を育む

11:25~11:55

嶋立 輝行(福岡県鞍手町) 「遊びの森クラブ」 代表

クラブが目指しているのは、小規模校の特性を生かし、小学校区をまるごと「あそび特区」にし、みんなで遊ぶことを通して、子どもたちに「ふるさと愛」を育むことである。「遊びの森」活動は定例的に月1回。活動の歴史は5年、活動の核は「7人のおっさん」。寺の裏山にログハウスやデッキのある遊び場を作り、小学生、保育園児に呼びかけ、彼らのあそびを通して保護者や高齢者を巻き込み、過疎に歯止めをかけ、地域の「風」を変えようとして来た。住民の参加が増え、コミュニケーションが強化され、子どもの成長を支える集団が育っている。

**3** 県立施設—市町行政—公民館等が協働する「課題解決支援講座」による地域づくり  
～「課題解決」は何が課題だったのか?～

12:00~12:30

北村 恵理子(佐賀県佐賀市) 佐賀県立生涯学習センター(アバンセ) 企画主任

アバンセと市町行政と公民館との協働を前提とした地域の「課題解決支援講座」である。企画の段階から3者の話し合いによる共同立案の形をとっている。平成24年度は5事業、25～26年度はそれぞれ3事業ずつ実施した。「講義—グループワーク—実践—ふりかえり」と展開し、それがひいては「高齢者の居場所」、「自治防災組織」の立ち上げ、「人材バンク」の創設等につながった。個別地域がそれぞれ具体的な地域課題を掘り起し、実践につなげることで、地域住民の自ら考える力(教育力)を引き出し、コミュニティを活性化することを目標としている。



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会／井上潤一郎 長崎県教育庁生涯学習課 係長  
土屋 佳子 沖縄県(株)オフィスハート・NPO法人マテルダおもちゃ協会 代表

分科会の進め方 13:30~13:35

**1** 吉賀は本気だ!!帰って来いよお  
~地域を支える人材(財)を地域ぐるみで育てよう「サクラマス・プロジェクト」~ 13:35~14:05

福原 靖子(島根県吉賀町) 吉賀町教育委員会 課長補佐  
杉内 直也(島根県吉賀町) 吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事

「サクラマス」は海で育ってふるさとの川へ戻って来る「ヤマメ」。地域の子どもは地域が育て、そして地域に返す。プロジェクトの目的は「ふるさとでの学びや体験をもとに、いつの日かふるさと吉賀町を支える人材(財)の育成」である。豊かな学びや体験、豊かな人との関わりをキーワードに、学校での学びや体験の充実、子どもの地域活動の充実、地域の教育力の充実の3つを柱に活動に取り組んでいる。子どもたちの活動では、学校でも地域でも応援団が支え、恵まれた自然環境を生かしてサクラマスは大きく成長していつている。地域の各種団体・機関を網羅した「サクラマス・プロジェクト地域会議」も立ち上がり、子ども達を中心としたネットワークが構築できている。

**2** 目指した成人式は「日本一」  
~新成人が発信するメッセージと表現力こそが成功のカギだ!!~ 14:10~14:40

野底 武光(沖縄県那覇市) 那覇市職員労働組合 書記次長

那覇市では、2002年以来、市主催の合同成人式が廃止され、各地域ごとに開催することが決定された。上山中学校区では、荒れる成人式の風評を払拭するため、実行委員会方式を採用し、「日本一」の成人式を目指した。発表者はそのプロデューサー兼実践者である。実行委員会には、新成人、保護者および地域の有志も参加し、地域活動なども織り込みながら1年をかけ企画を練り上げた。式典では、新成人が地域の方々に感謝の言葉を述べた、両親への自立の手紙を手渡すなどのセレモニーと合わせて、彼らが誇る伝統の「旗」やエイサーの演舞も披露され、新成人が発信するメッセージや表現力を大事にして式典のあり方を一新した。

ティータイム 14:40~15:05

**3** 子どもによる伝統芸能の継承が地域をつなぎ、  
異年齢の仲間集団を育て、地域文化を支えている 15:05~15:35

森 和明(長崎県諫早市小長井町) 長立会 指導者・世話人

浮立とは笛の音に合わせて太鼓や鐘を打ち鳴らして、集団で踊る民俗芸能の一種である。当地でも長里浮立の担い手の高齢化が進み、後継者不足の課題を抱えているが、平成9年に地元有志が浮立継承のため「長立会」を設立し、翌年から長里小学校の児童を中心に「子ども浮立」の活動を開始した。多くの子どもの参加を得ることができ、練習の成果は町内行事、市内各種イベント、施設の慰問などで披露する一方、地域の伝統行事である7月の「田祈禱祭」を支えている。活動を続けることで、地域の理解と協力も得られ、子どもたちには自ずと異学年の交流が生まれ、健全育成の成果に繋がっている。

**4** 人も資源もつないで育てる八幡浜元気プロジェクト 15:40~16:10

濱田 規史(愛媛県八幡浜市) NPO法人 八幡浜元気プロジェクト 代表理事

平成18年創設。高校時代の生徒会メンバー4人が清掃活動からスタートしたプロジェクト。現在は20代~30代のメンバー20人が活動中。専従者は事務局1名で他は「2枚目の名刺」を使ったボランティア。プロジェクトは「つながり事業」と「まち育て事業」の2種類。目的は「住民の参加を得ること」、「地域の資源を活用すること」で共通している。主催事業だけでなく、中間支援を重視し、「かまぼこ板打瀬舟プロジェクト」、「八幡浜お手伝いプロジェクト」、「knockn Rollえひめ実行委員会」などが生まれている。活動が評価され、平成25年度から「八幡浜みなっと みなと交流館」の管理業務の委託を受けている。



# 第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／佐藤 倫子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事  
大島 功央 島根県津和野町教育委員会 派遣社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「体験機会の創造」と「基礎学習サポート」を組み合わせた「放課後チャレンジ教室」 13:35~14:05

萱島 かよ(大分県国東市) 国東市協育ネットワーク コーディネーター

国東市では、子どもの「居場所」と「体験」を重視する「放課後子ども教室」(12年目)と補習や基礎基本の学習サポートを中核とする「放課後学びの教室」(6年目)の2本立てで「放課後チャレンジ教室」を展開している。前者は各4小学校で月1回、年11回の「ゆめさき体験スクール」として実施している。後者は「子ども教室」を実施しない水曜日で年30回、さらに長期休暇中を含む土曜日は年12回、合計42回の実施である。後者の活動は国語・算数を中心に退職教職者や地域の有志、高校生などが指導に当たっている。地域による学校支援活動として文部科学大臣表彰を受けている。

2 「母なる海を守る会」の「協働」戦略 ~一人から始まり、850人を繋いだ「クリーンビーチ作戦」~ 14:10~14:40

島寿 一明(山口県長門市) 「母なる海を守る会」 会長  
森田 和康(山口県長門市) 油谷中央公民館 前館長

油谷の大浦海岸は本州の西北端に位置している。それゆえ、潮が運ぶゴミが国内外から漂着する。美しい海を慕って移住してきたIターンの住民が独りで始めたゴミ拾いは、平成20年に「クリーンビーチ大作戦」に発展し、平成24年には、850人の賛同者を集めるまでに成長した。「大作戦」と平行して「母なる海を守る会」も組織化され、広報活動や参加者へのもてなしの工夫などさまざまな協働事業を模索した結果、海岸清掃の全国組織との連携、ダイビング団体と連携した海底ゴミの回収、漂着ゴミや森林保全に関するシンポジウムの開催などのプログラムに発展している。

ティータイム 14:40~15:05

3 ふるさとを知り、ふるさとを学ぶ総合的学習の学社連携 ~「高千穂大好きプロジェクト」~ 15:05~15:35

橋本 香織(宮崎県高千穂町) 高千穂町立高千穂小学校 指導教諭

学校の総合的学習の時間にJA青年部・女性部、商工会女性部など地域の方々の応援を頂くようになって、図らずも学社連携、学民融合の企画になり、子どもにとってはキャリア教育も含めた異世代交流の機会にもなった。プログラムの中身は、「米づくり」、「神楽」、「大豆の栽培」、各種の「ふるさと料理」などであるが、子どもは巧まずして、少子高齢化や後継者不足のふるさとの現状を学ぶことにも繋がった。PTAやJAの予算を活用し田んぼも畑も借りたが、同時に学校施設も提供し、両者がwin-winの関係になれるよう配慮した。

4 「大莞少年消防クラブ」26年の伝統と社会参画 15:40~16:10

北原 幸則(福岡県大木町) 大木町消防団第3分団 前部長

大莞少年消防クラブの最大の特徴は、大莞小の5・6年生全員が入会していることと26年の歴史があることである。このクラブは大木町消防団の第3分団が指導に当たり、防火啓発は元より、青少年の健全育成、愛郷心の涵養を目的として活動を展開している。プログラムは、「大莞若獅子まとい太鼓」の継承、規律の訓練、消防署活動の見学などで、主要な地域行事に参加し、練習成果を発表している。平成10年総務省消防庁の「少年消防クラブフレンドシップ'99」において優良クラブの表彰を受けている。



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／宇都宮 忠 大分県教育庁社会教育課 社会教育主事  
原田 尚 島根県浜田市立雲城小学校 教頭

分科会の進め方 13:30~13:35

**1** 「学校支援会議」が実践する地域・家庭・学校が一体となった教育事業の企画と戦略 13:35~14:05

中村 浄子(長崎県南島原市) 南島原市教育委員会 地域コーディネーター

平成26年度~30年度という中期構想で取り組む地域教育力・家庭教育力の向上を目指した地域・家庭・学校が一体となった教育の推進事業である。「開かれた学校」、「地域における子どもの安全の確保」、「活力あるPTA」などを目標に、市立有家小学校をモデル校として、青少年育成協議会、警察、学校評議員、老人クラブ、民生委員など多様な地域人材を網羅した「学校支援会議」を企画・実践の核としている。具体的な実践は、オヤジの会や高校等と連携し、「地域学習であり、身近なもの」であることを原則に、「蛍のすむ有家川」、「子ども神輿」、「通学合宿」、「日曜学校」などに取り組んでいる。

**2** 小規模校における社会教育施設との学社融合プログラムの試み ~地域は子どものために、子どもは地域を元気に~ 14:10~14:40

林田 匡(熊本県熊本市) 熊本市立中島小学校 教諭

本校は児童数76人の小規模校であり、多様な人々とのかかわりが不足している。子ども会も存在していない。そこで近隣のふれあい文化センターが有する地域資源を最大限に活用するという学社融合の視点で、キャリア教育やクラブ活動を発想した。具体的には、クラブ活動のカリキュラムに「スポーツクラブ」、「茶道クラブ」、「大正琴クラブ」などを導入した。指導者の多くはセンターの「講座生」である。また、人権教育やキャリア教育の一環で、震災後のボランティア活動に参加された方やパラリンピックの日本代表をゲストティーチャーでお招きした。様々な人との学び合いやかかわり合いにより、児童は多様な指導を受ける中で自尊感情が高まるなどの効果がみられ、「地域講師」は子どもと関わることで元気になり、社会教育施設との連携が確実に向上する等、様々な相乗効果が見られている。

ティータイム 14:40~15:05

**3** 「男のクラブ」が主催する珈琲ショップが地域をつなぐ 15:05~15:35

栢田 弘子(鳥取県倉吉市) 鳥取県倉吉市小鴨公民館 主事 男のクラブマスター

平成23年度、公民館は「男前教室」をスタート。学習の中から「男のクラブ」が誕生して、平成25年に公民館を基点として活動を開始した。「おいしい珈琲の入れ方」講座を開催し、地域の人たちに提供する過程で、「コーヒーショップおがも」の開店に繋がって行った。喫茶の開店にあわせて絵画、版画、書、俳句などの展示ギャラリーを開設する傍ら、抹茶のグループとの同時開催も可能になった。公民館との協働のなかで団塊の世代の男達がいきいきと活動し、地域の交流を主導し、無縁社会を突破する発信力を獲得している。

**4** 「良き企業人は良き社会人」の理念にもとづく 高校生キャリア教育の「学民協働」 15:40~16:10

花蘭 伸一(鹿児島県日置市) 日章学園鹿児島城西高校 中高連絡部広報担当

地域企業などの支援を得て、高校の学科編成やコース編成をキャリア教育化して、カリキュラムを完全に実学化し、学外プロの指導をふんだんに取り入れている。例えば、トータルエステティック科、調理科、福祉科、ホテル観光科などがある。ホテル観光科の夏休み実習は40日間、もらった給料は海外実習の旅費になる、など、本格的な企業実習を組み込み、「学民協働」の実験的プロジェクトに挑戦している。教学の理念は「良き企業人は良き社会人」であり、高校生のキャリア実習は、即戦力と成り得る技能指導に重点を置き、学外実習は多様な地域貢献を含んでいる。



# 第4会場●4F 大研修室

■司 会／榎園 成人 鹿児島県始良市教育委員会社会教育課 社会教育指導員  
河口聡一郎 福岡県教育庁南筑後教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

**1** 「待つ支援」から「届ける支援」まで母親たちが創造した  
子育て支援の全方位的モデル 13:35~14:05

松崎 美穂子(徳島県徳島市) NPO法人 子育て支援ネットワークとくしま 理事長

子育てサークルから始まった徳島市の子育て支援は、20年以上の長い活動の歴史を積み上げて来た。主力は子育てサークルを卒業した母親たちや子育て中の母親。休耕田を借りて「ひろば」を作り、地域に密着した情報誌も出した。NPO設立後は、徳島市の委託を受けて、中心街に「子育てほっとスペースすきっぷ」を運営、各種の相談・交流事業を展開して、今年で12年目。現在は「待つ支援」と並行して「届ける支援」を開始。「家庭訪問型支援ホームスタート」や学校への「赤ちゃん授業」の出勤、「シルバー人材」と組んだ「シニア子育てサポーター事業」なども実施している。

**2** 28年の歴史が築いた0歳児からの子育て支援 14:10~14:40

岸 多津(鳥取県鳥取市) 鳥取市立賀露地区公民館 主任  
岸 睦(鳥取県鳥取市) 鳥取市立賀露地区公民館 主事

「親子教室モデル地区事業」からスタートして28年、親子で参加する「乳児学級」を年間17回、「幼児学級」を22回開催している。本事業は公民館が中心となり、保健師、栄養士、主任児童委員、学級のOB・OG、地域のボランティアなどが協力し、これまでの歴史が築いた地域の人脈で担っている。乳幼児期からの子どもの参加は、親子ともども公民館との信頼関係を育て、「お母さんの自主企画」や「小・中学生の自主企画」事業に繋がっている。地域の人々を繋ぎ、体験や交流の循環を生み出し、循環型社会の創造と地域の人材育成に寄与している。

ティータイム 14:40~15:05

**3** 強い翼をつくるための心と身体の栄養—子どもたちを青空に! 15:05~15:35

三浦 章嘉(大分県大分市) 大分市立吉野中学校PTA 会長  
相馬 剛、但馬 環、飛田靖枝、小村美由紀、竹田幸恵(大分県大分市) 大分市立吉野中学校PTA 会員

「和」と「話」と「輪」の3つの「わ」運動を目指したPTA活動の中で、「自尊感情栄養理論」に基づいて、困難に出会っても粘り強く努力する姿勢、自信を持って立ち向かう心、相手を大事にする心などを育てるため、「身体の栄養」と「心の栄養」に着目した各種の活動をPTAの各部門毎に展開した。学校や生徒会も連携して取り組み、学校は「自己肯定感」の涵養を、生徒会は「カッチョイ活動」と称して自分たちの長所を見つける活動を行った。保護者は「子どもとの関わり方の意識度」が向上したと答え、子どもたちはそれぞれに「長所」や「人とのつながりの大切さ」を自覚したと答えている。

**4** 「親の学び」プログラムは未来の家庭教育支援  
～ターゲットは次世代!コミュニケーションのできる親になれ!!～ 15:40~16:10

服部 正(熊本県) 熊本県教育委員会社会教育課 社会教育主事

本プログラムは、研修を受けた「トレーナー」が進行役を務める自立した親になるためのコミュニケーション講座で、「自己を見つめ、他者とかわる」能力の向上を目指している。講座の原則は通年であるが、学校や社会教育施設が活動の一環として実施する場合もある。平成26年現在で、850か所、約5万人が受講している。高卒後若年で親になるケースも多いため、次世代をターゲットにしているので、学校の協力が不可欠である。現状では、中高生の参加は数パーセントに留まっているので、授業や学校行事への組み込み、研究指定校の活用などを検討している。

1st day  
5.16 Sat.

## 第34回大会 特別報告

■時間 / 16:30 ~ 17:00 ■会場 / 2F 講堂

### テーマ●「国際結婚の社会学 —国際化で日本文化は変わるか?—」

三浦清一郎

2nd day  
5.17 Sun.

## 第34回大会 特別企画

■時間 / 9:00 ~ 11:30 ■会場 / 2F 講堂

### 「笑学校」の理論と実践

インタビュー・ダイアログ&「笑学校」の教育実習

落語、漫才、川柳、狂歌、落首など、「笑い」は日本文化に脈々と流れ続けて来たメッセージの伝え方です。今やサラリーマン川柳やシルバー川柳を知らない人はなく、「お笑い」はテレビの看板番組になりました。時代は、時あたかも「活字離れ」・「講演離れ」の真ただただ中で多くの出版社が潰れるという社会的風土が生まれています。

社会教育の関係者はご存知のように、「固い話」に飽き飽きし、「タテマエの講話」にうんざりした人々は、人権講座も男女共同参画講演会も敬遠して、聞いてくれません。学校が工夫してくれる授業参観後の「教育講演会」でさえ保護者は残らなくなりました。

そういう時代の閉塞状況に、矢野氏も「笑学校」も切り込んでいるのです。年400回を超える口演実績も、100名を超える同窓生が集う「笑学校」も、「笑い」を通して、必要なメッセージを伝え、学習や教育にうんざりしている人々の間にコミュニケーションを創造しています。

ユーモアや「笑い」がコミュニケーションの重要要素であるにもかかわらず、日本の教育界は「笑い」を重視したことはほとんどありません。教育における「笑い」は、時に「ふざけ」と同一視され、学習者への「不敬」や「不真面目」の同意語であるかのように受け止められて来ました。もちろん、背景には、「笑いの質」が低かったということもあるでしょう。「ふざけないで!」、「まじめにやれ!」とたしなめられることも多かった筈です。

この特別企画は、コミュニケーションや教育における「笑い」の意味を再考しようという試みです。「笑い」は人々を引きつけ、「笑い」に乗せれば、人権のメッセージも男女共同参画の意図も難なく伝えることができるという事実を突きつけられました。何より「笑い」は人々を和ませ、人々をつなぎ、時に人々を救うこともできます。今回はこの分野の最先端で東奔西走している矢野氏と笑学校の代表をお招きして、笑いとう教育の融合についてお聞きします。ついでに、第2部では、教育実践を続けて来た2人の晩学者が、「笑いの世界」の挑戦を受けます。「まじめだけでどこまで通じるか」、「悔しかったら人々を集めてメッセージを伝えてみる」と言われた時、教育界は対応できるのか? 「講義」は「口演」に学ばなくていいのか、矢野氏の「教育解剖学」をお聞きします。

#### 第1部 インタビュー・ダイアログ 1 (40分)

「笑い」の中にどう「教育的メッセージ」を織り込んで行くのか?

語り手: 矢野大和

聞き手: 三浦清一郎

#### 第2部 インタビュー・ダイアログ 2 (40分)

「笑い」の中で何を言えというのか? 注文の多い二人の晩学者に聞く

語り手: 正平辰男(純真短期大学特任教授)

三浦清一郎(生涯学習通信「風の便り」編集長)

聞き手: 矢野大和

#### 第3部 (1)「笑学校」の教育実習・・・笑わせたいわ笑学生: 三浦佳代子 (20分)

(2) 矢野大和「笑学校」校長の講評・・・「笑い」&「教育的メッセージ」

## <登壇者プロフィール>

### ●矢野 大和 (笑わせたいわ笑学校 校長)

---



昭和31年生。大分県宇目町の鷹鳥屋神社の宮司。県南落語組合会長。宇目町役場・佐伯市役所の教育委員会などに勤務中、特命でまちの観光大使を務めた。50歳で自立。全国を股にかけ、年間400回以上の「口演」をこなしている。「口演」とは「口で演ずる話芸」の意味。中身は、人権、子育て、健康、まちづくり、高齢者の生きがい、生きる力、人間関係、家族のきずな、発想法など多岐に渡る。現在「おおいた観光特使」を務める傍ら、大分合同新聞文化教室講師として「話し方教室」を主催、「笑学校」と銘打って、「笑いを基本とした生き方・コミュニケーションの方法を説きかつ実践している。

### ●正平 辰男 (純真短期大学特任教授)

---



福岡県教育庁社会教育課主幹社会教育主事、福岡県立社会教育総合センター副所長を歴任。2003年、東和大学総合教育センター長・特任教授、2008年より現職。NPO法人体験教育研究会ドングリ理事長。1983年より生活体験プログラム「通学キャンプ」に取り組む。1985年、10泊12日の通学キャンプを企画、実践。1989年より旧庄内町立生活体験学校で、年間20回の「通学合宿」の企画・実践に参画。子どもに迎合しない、「生活の型を教える」、「耐性」を育む、プログラムの連続性・循環性にこだわって実践中。著書に、「子どもの育ちと生活体験の輝き～これまでの通学合宿、これからの通学合宿」、「通学合宿・生活体験の勧め」などがある。

### ●三浦清一郎 (月刊生涯学習通信「風の便り」編集長)

---



文部省、福岡教育大学、シラキューズ大学、九州女子大学などを経て、現在月刊生涯学習通信「風の便り」編集長。晩年は執筆に集中し、「子育て支援の方法と少年教育の原点」、「しつけの回復 教えることの復権」、「変わってしまった女と変わりたくない男」、「安楽余生やめますか、それとも人間止めますか」、「自分のためのボランティア」、「未来の必要(編著)」、「熟年の自分史(いずれも学文社)」、「心の危機の処方箋」、「国際結婚の社会学」(日本地域社会研究所)などがある。今回の特別企画の登壇者：矢野大和氏とのコラボを意図した「笑って許して」(教育評論と小咄)を4月刊行予定(日本地域社会研究所)である。

# 第33回大会開催報告

●大会期日 2014年5月17日(土)～18日(日)

●場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者  
司会者及び  
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
山口	4	2	24
広島	2	1	23
島根	3	2	26
鳥取	5	0	17
岡山	1	0	6
計	15	5	96

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
東京	0	0	7
大阪	0	0	4
愛知	0	0	1
静岡	0	0	1
茨城	0	0	3
兵庫	0	0	6
計	0	0	22

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
徳島	1	0	9
愛媛	1	1	14
高知	0	0	4
香川	0	0	0
計	2	1	27

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	3	3	149
佐賀	3	2	36
熊本	4	2	12
大分	4	1	25
宮崎	1	0	4
長崎	2	1	45
鹿児島	1	1	7
沖縄	1	0	3
計	19	10	281

	発表者数	司会者数	参加者数	実行委・登壇者数	総参加者数
総計	36	16	426	22	478

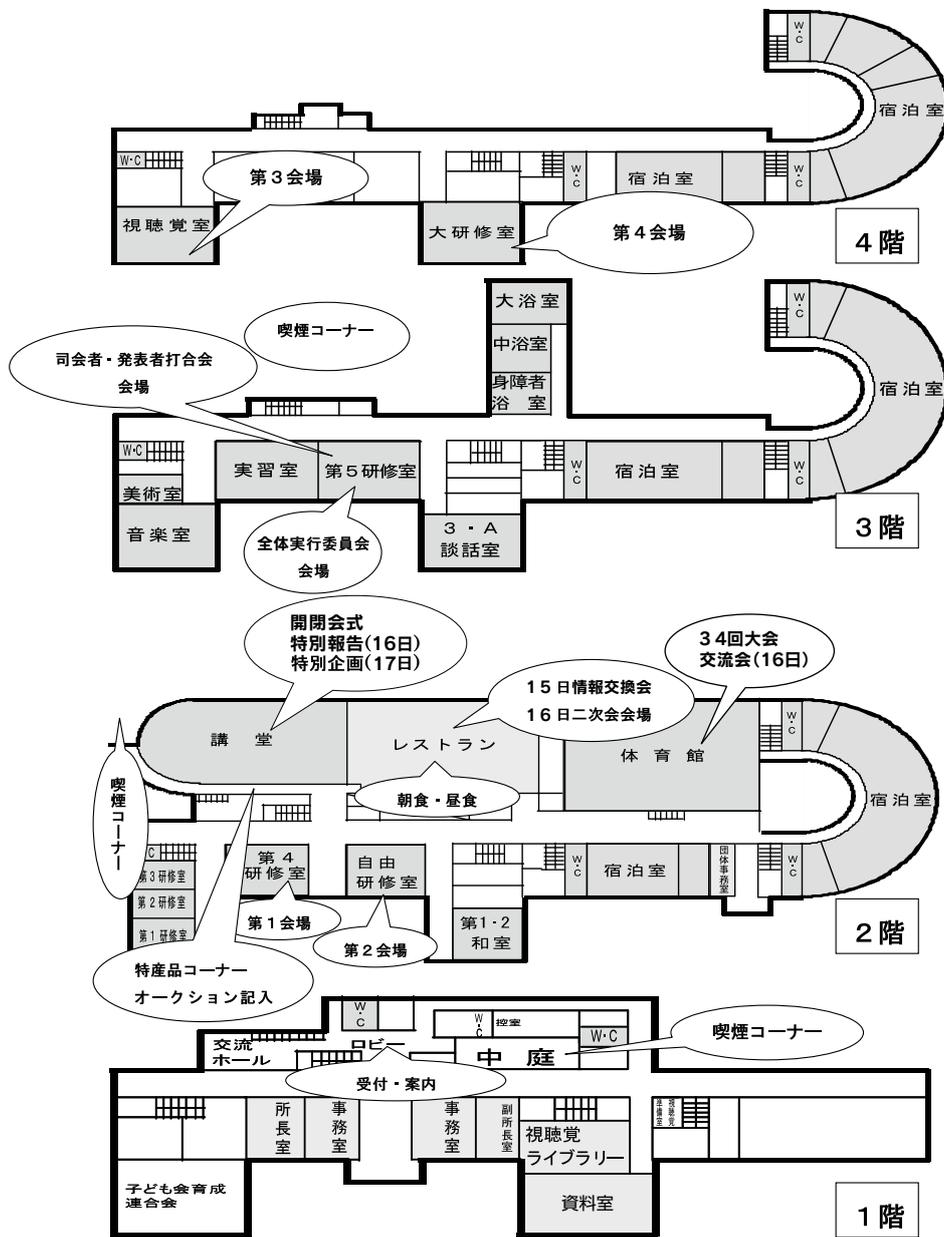
**特産品、稀少品ありがとうございました**  
第33回大会も皆様のご協力により、  
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
1	谷 忠之	福岡県	放送大学	ワイン(フランス)
2	鶴木孝夫	鹿児島県	始良市教育委員会	鹿児島県の焼酎 黒石岳
3	竹添辰也	鹿児島県	鹿児島県市教育委員会	鹿児島県の焼酎 黒伊佐錦
4	和田 明	島根県	仏鉄の歴史村地域文化研究所	玉子かけごはん専用しょう油
5	大下修一	鳥取県	伯耆町学校支援地域本部	自家製コシヒカリ 3kg
6	大下修一	鳥取県	伯耆町学校支援地域本部	山陰限定“おとなのふりかけ”と“鳥取県の恋人”
7	赤田博夫	山口県	山口県ポロポロの会	寒漬(かんづけ)
8	杉原 潔	広島県		レモン チェロ リキュール
9	杉原 潔	広島県		レモンドレッシング
10	大野体験活動ボランティア活動支援センター	広島県	大野体験活動ボランティア活動支援センター	元祖もみじまんじゅう
11	三浦清一郎	福岡県	月刊生涯学習通信「風の便り」編集長	ワイン(フランス)
12	赤田尚子	山口県	山口県ポロポロの会	手づくりお手玉
13	森本精造	福岡県	サンビレッジ茜	おいしい玉子テラエッグ
14	香月利都子	福岡県	大会事務局	岩松岩屋産めひじき(2点)
15	中吉浩一郎	岡山県	岡山県市岡山県子育て成局子ども企画総務課	お岡山梅酒
16	中吉浩一郎	岡山県	岡山県市岡山県子育て成局子ども企画総務課	津山ホルモンうどんのたれ
17	竹ノ内三千代	鹿児島県	鹿児島県市教育委員会	黒糖焼酎
18	竹ノ内三千代	鹿児島県	鹿児島県市教育委員会	ひとくちげたんは
19	古市勝也	福岡県	九州共立大学	かごしまボタンアメセット(2セット)
20	古市勝也	福岡県	九州共立大学	焼酎
21	紫園来未	佐賀県	オフィスしおん	福岡県名菓鶴の子
22	久芳善人	山口県	山口県県立高等学校PTA連合会	ウイロウ
23	原田尚	島根県	雲南市立加茂小学校	しじみのセット(みそしるなど)
24	関弘紹	佐賀県	県庁	かすづけ
25	洲上卓也	長崎県	長崎県県教委生涯学習課	ちんちん電車クッキー
26	大島まな	福岡県	九州女子大学	ジャックダニエルズ(バーボン)
27	篠原一二三	徳島県	徳島県大学生生涯学習研究院	ぶどうまんじゅう
28	安達昇	東京都	社研	洗心
29	志々田まなみ	広島県	広島県経済大学	清酒花酔 純米吟醸
30	鳥越留美子	東京都	社会教育実践センター	雪中梅 純米
31	松本兼幸	長崎県	草社の会	酒
32	内田光俊	岡山県	岡山県市ESD世界会議推進局	ESDきびだんご
33	竹内、清家、平部、藤崎、佐藤	宮崎県	宮崎県県教育庁生涯学習課	宮崎県日向夏ラガー(ビール)

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
34	幅野得恵	広島県	府中町教育委員会	餅栗ケーキ
35	宮本和代	福岡県	北九州市教育委員会	シトロな街門司港スイーツ生チョコケーキ
36	高野安男	徳島県	徳島県大学開放センター「六一会」	阿波の香りすだち餅
37	久佐日佐志	島根県	浜田市下府町	地酒池月餅が舞
38	大城健正	沖縄県	繁多川公民会	塩せんべい
39	徳島県大学生涯学習研究院	徳島県	徳島県大学生涯学習研究院	海苔
40	加島俊彦	徳島県	徳島県大学開放実践センター	金長まんじゅう
41	角田敏郎	愛媛県		小富士超辛口
42	生田信樹	鳥取県	鳥取県教育委員会西部教育局	水木しげるのほのぼの名言クッキー
43	青山征司	島根県	県立東部社会教育研修センター	島根県県民大のほのぼの(みそしるとつくだに)
44	内藤妙子	福岡県	社会教育課	小正の梅酒
45	田中崇詞	鳥取県	米子市役所よどえまちづくり推進室	焙りわかめ
46	社会教育室	福岡県	北筑後教育事務所	胡麻祥耐 紅乙女
47	秋山千瀬、城野真澄	佐賀県	佐賀県市立勸興公民館嘉瀬公民館	焼酎竹物語
48	こうちゃん	長崎県	こども未来課	香岐焼酎 香岐の島
49	山口県智久	鳥取県	日吉津村 富吉青春部	特別純米酒 八郷
50	山本一穂	島根県	島根県県教育庁教育指導課	出雲そば
51	田中崇詞	鳥取県	米子市役所よどえまちづくり推進室	目玉おやしさがし(シフォンケーキ)
52	佐藤倫子	熊本県	熊本県県生涯学習推進センター	くまモンの熊本県県観光地図タオル
53	佐藤倫子	熊本県	熊本県県生涯学習推進センター	くまモン にぎこぎボール
54	佐藤倫子	熊本県	熊本県県生涯学習推進センター	きのこカレー
55	佐藤倫子	熊本県	熊本県県生涯学習推進センター	阿蘇名物 だんご汁
56	佐藤倫子	熊本県	熊本県県生涯学習推進センター	アカバクッパ お風呂用 くまモンタイプS和紙テープ
57	吉岡康行	広島県	広島県県教育委員会生涯学習課	カーブバック
58	林田充敏	長崎県	南島原市 教育委員会	日本一おいしいソーメン3kg
59	馬場利浩	長崎県	長崎県県生涯学習課	龍馬伝珈琲
60	浜崎順子	島根県	島根県県教育庁社会教育課	出雲ぜんざい
61	うめちゃん	長崎県	長崎県県こども未来課	長崎県産焼きあご仕立てあごだしめんつゆ
62	中村和夫	山口県	GOppoええぞなクラブ(総合スポーツ型)	羽衣もなか
63	藤井剛	岡山県	井原市教育委員会	きびだんご
64	岡山県県教育庁生涯学習課	岡山県	岡山県県教育庁生涯学習課	ひるぜん焼きそば
65	松尾修	長崎県	大村高等学校	純米酒 龍馬維新
66	岡山県県教育庁生涯学習課	岡山県	岡山県県教育庁生涯学習課	きびだんご三昧
67	東川絵葉	岡山県	岡山県県教育庁生涯学習課	ももたろうとまとぼんず
68	藤井 剛	岡山県	井原市教育委員会	えきから備前焼
69	菊川律子	福岡県	九州大学	マドレーヌ
70	三宅千恵	岡山県	岡山県教育事務所生涯学習課	おひなたピーチ
71	藤田千勢	山口県	山口県ポロポロの会	菓子1箱
72	縄田早苗	大分県	大分県県立社会教育総合センター	大分県がほすわいん
73	三宅千恵	岡山県	岡山県教育事務所生涯学習課	桃太郎岡山の旅
74	三宅千恵	岡山県	岡山県教育事務所生涯学習課	ひるぜん焼きそば煎餅
75	仲 正恵	大分県	杵築市教育委員会	智恵美人かぼす梅酒
76	益田徳子	山口県	やまぐちネットワークエコー	大内館(おまんじゅう)
77	青木和代	徳島県	徳島県県大学開放実践センター同窓会「六一会」	金長まんじゅう
78	吉高憲一郎	大分県	大分県県立社会教育総合センター	芋焼酎常蔵
79	藤田千勢	山口県	山口県ポロポロの会	夏みかん
80	岡田正彦	大分県	大分県大学	麦焼酎「特上泰明」
81	矢野大和	大分県	笑わせたいわ笑学校	耶馬美人
82	田口許江	徳島県	徳島県県大学生涯学習研究院	鳴門市阿波踊り手拭い
83	NPO法人子どもサポートにっこにこ	大分県	NPO法人子どもサポートにっこにこ	あま酒
84	都野上野	山口県	井関にっこクラブ	竹炭
85	都野上野	山口県	井関にっこクラブ	あじす特産品
86	都野上野	山口県	井関にっこクラブ	山口県市阿知須特産品食品(おもち、鮎、かけ醤油)
87	黒田優一	長崎県	長崎県県生涯学習課	じゃがたらお春
88	矢野やす子	鹿児島県	azc(有)	あくまき焼酎
89	藤田直子	長崎県	みんなでワハハ	川棚まんじゅう
90	藤田直子	長崎県	みんなでワハハ	新聞ちぎり絵①長崎県県所イベント②ワンチャンシリーズポストカード3枚組
91	木原忠	福岡県	宇美町共働のまちづくり	萬代
92	広島県県立生涯学習センター	広島県	広島県県立生涯学習センター	やっさまんじゅう&たこせん
93	大下展弘	広島県	広島県県立生涯学習センター	広島県風 お好み焼きせんべい
94	筑豊教育事務所	福岡県	筑豊教育事務所	黒霧島、二階堂、寒北斗
95	社会教育課一同	福岡県	社会教育課一同	日本酒 (3本)
96	岡部真弓	福岡県	八女市役所矢部支部	寒山水(大吟醸)
97	上田哲子	福岡県	社会教育課	ワイン
98	吉岡真喜夫	広島県	広島県県生涯学習インストラクター・コーディネーターの会	もみじまんじゅう
99	大島功央	島根県	津和野町教育委員会	純米大吟醸“初陣”
100	秋山千瀬、城野真澄	佐賀県	佐賀県市立勸興公民館 嘉瀬公民館	焼酎竹伝説

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、御容赦下さいますようお願いいたします。

# 会場案内図



## 「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

最新事例  
 「新しい風」を  
 クリックして  
 ください！

ぜひ一度ご覧ください！

## 福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2  
 TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029